27年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年9月1日～ 27年9月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
入荷動向	国産材	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	外材	△ 12.5	25.0	25.0
在庫動向	国産材	25.0	△ 12.5	△ 25.0
	外材	25.0	△ 12.5	△ 25.0

・国産材ラミナの入荷は3ヵ月連続して減少。外材は9月の減少から10月、11月は増加、

・国産材及び外材の在庫は9月の増加が、10

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/9月	10月	11月
国産材	0.0	12.5	12.5
欧州材	16.7	16.7	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格は9月の横ばいから先行きはやや強含み。欧州材はやや強含みで推移。その他は横ばい。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・スギ集成材の受注量を制限しているため、入荷量も前月同様横ばい。岩手県産ラミナの入荷量は少な目だが、北海道産は順調に入荷。スギ在庫は前月同様少な目、カラマツは前月よりやや増加。
・外材の入荷は、やや減少からやや増加、入荷調整の効果有か。一定量の在庫が続く予定。
・秋需により、ラミナの消費は増加傾向にあるが、国産材の供給の不安定さを懸念。10月、11月と一気に在庫の放出感がある。

(ラミナ価格動向)

・スギは横ばい、カラマツは原木価格が下がらず、横ばい。
・為替変動が大きいため先が削りづらい状況。
・一時的な原木不足からラミナ価格は上昇するが、製品単価は大きく上昇せず、大幅な上昇は望めない。

27年9月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
生産動向	国産材	10.0	10.0	10.0
	WW集成管柱	△ 100.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 33.3	16.7	33.3
	米マツ集成平角	0.0	25.0	25.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	△ 10.0	30.0	30.0
	WW集成管柱	△ 100.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 33.3	33.3	33.3
	米マツ集成平角	0.0	25.0	25.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は3ヵ月連続して増加。WW集成管柱は9月の減少から10月、11月は横ばい。RW集成平角は9月の減少から10月、11月は増加。

・国産材及びRW集成平角の出荷は9月の減少から10月、11月は増加。WW集成管柱は9月の減少が、10月、11月は横ばい。米マツ集成平角は9月の横ばいが10月、11月は増加。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/9月	10月	11月
スギ集成管柱	16.7	16.7	16.7
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	25.0	50.0	50.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	0.0	16.7	16.7
米マツ集成平角	25.0	25.0	25.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	50.0	50.0
カラマツ集成平角	0.0	0.0	0.0

・スギ集成管柱、ヒノキ集成土台及び米マツ集成平角の出荷価格は、強含み推移。

・ヒノキ集成柱、カラマツ集成土台、WW集成管柱及びカラマツ集成平角は、3ヵ月連続して横ばい。

・RW集成平角及び米ヒバ土台角は、9月の横ばいから先行き強含み。

モニターからのコメント

(構造用集成材荷動き)

- ・8月下旬より、徐々に製品荷動きは回復傾向にあるが、依然当用買いと思われる注文が多い。各プレカット工場の稼働率が8月お盆明けから上がっているため、引き合いは増加傾向。災害公営住宅の他、保育園・公民館・小中学校等の非住宅物件があり、来月以降も引き合いはあると見込まれる。
- ・RWは、7月以降荷動き好調だが、先行き判断がしづらい。残業等での増産はしない。輸入製品の入荷影響が出始めている。
- ・柱関連が弱いこと減産。土台は国産材、米ヒバ共に増産体制。どこまで需要が伸びるか未定だが、年内は集成土台の出荷量は伸びそう。その後のブレーキがいつ来るのかが気になる。

(構造用集成材出荷価格動向)

- ・スギは、大手集成材メーカーの安値玉が底を打ち、若干値戻しをしてきているが、スギ集成材の新工場が出来ることもあり、全国的に供給過剰が予想される。こうしたことから、大きく反発することはないとの見方が有力。カラマツは、原材料の価格が横ばいで、製品価格も基本的に横ばい。一部、大手ビルダー向けの価格を引き合いに、値下げ要請があるが、原材料の高止まりの影響で値下げに対応出来る商品は少ない。
- ・安価な輸入完成品の影響を受け始めている。そのため、値上げは困難。
- ・柱弱、土台強の様子。プレカット工場の需要と共に若干上昇傾向にある。ピークを過ぎると一転して再び値下がり方向になることを危惧。